

教育機関・ビジネスのグローバル化に伴うリスク管理向上のための E ラーニング・プログラム 仕様書

①大学生の海外における危機管理 E ラーニング・プログラム（グローバル編）Version1.0

質問数：150 問 ○×方式+複数選択式（推定時間：40 分） 使用言語：日本語、英語

1. 目的

日本の教育機関から海外に留学、研修、インターンシップ、ボランティア活動、旅行などに出る学生のリスク意識を向上させ、海外で被害にあう学生たちを減少させることが目的である。

通常、日本の大学など教育機関の多くでは、出発前の学生のリスク研修は、出発直前に1~2時間の一方通行の研修を受けさせるだけで、しかも学生がどこまで理解しているかを十分に確認のないうちに派遣してしまっている。その後、大学側としてはリスクに関する理解は学生任せで、学生たちがどこまでリスクに対して具体的に理解しているかまで把握できていない場合が多い。

また、大学が行う研修は大学が認定する正規の交換留学や研修に参加する学生のみが多く、個人的な留学や研修、インターンシップ、ボランティア活動などの一般的な海外プログラム参加する学生まで手が届いていないのが現実である。他方、その学生たちがいったん海外に出て、災害に巻き込まれたり、犯罪に巻き込まれたり、また犯罪を起こしたりした場合、確実に大学名は公表される。これは大学にとってもリスク・マネジメントの課題であるとともに、背景には現状の大学教育においてリスク・マネジメント教育が大きく欠落していることが考えられる。

この E ラーニング・プログラムは、学生たちのリスク管理の理解度を数値化して見える化させることにより、各自が自分の理解度のレベルを把握することができる。また、大学全体的や学部ごとに学生のグローバル化に伴うリスクの理解度を分析した結果と助言を提供することが出来る。教育機関としてグローバル教育、世界を知る学びの中に学生たちが世界で起こっているリスク、災害など自然現象について学び、さまざまなリスク要因から自身を守る意識や能力を高める教育が必要な時代になってきているなか、本プログラムはそうしたニーズに応えるものとなっている。

2. 大学生の危機管理 E ラーニング・プログラム（グローバル編）の仕様

- ① PWA（Progressive Web Apps）方式の Web アプリで、スマートフォン、タブレット、PC 上で使用できるように開発する。
- ② 質問は 150 問、E ラーニング・プログラム終了後、解説を確認し、間違えたポイントを確認することが出来る。また、この解説は、その後いつでも開いて確認することができる。
- ③ E ラーニング・プログラムの内容は、下記の通りであります。日本語と英語で提供します。

A：海外に出るための基礎知識

B：旅行前の準備しておくこと

C：テロに対する心構えに関する質問

D：トラブルの事例と対策

E：禁制品や制限品目に関する質問

F：宗教や習慣に関する質問

G：麻薬に関する質問

H：交通に関する質問

I: 海外で災害に見舞われた時の質問

J: 健康に関する質問

K: 未知なる感染症に関する質問(新型コロナウイルス、新型インフルエンザなど)

④ 大学名、学部、専攻コース、氏名(漢字)、氏名(英語)、学生番号を明記して、Eラーニング・プログラム・テストを受けることができる。個人データは、テスト終了後すぐに自分のリスクに関する理解度がわかる。また、各項目の解説を読むことができ、間違った点などを確認することができる。

個人に提供する評価

- 総合点正解率(〇〇/100点); A-D 評価
- 個人の質問項目別評価(%)を示して弱点を指摘する。
- A-D ランクの評価ごとにコメント(定型文)を提供する。

個人への報告サンプル(受講後すぐに下記のデータを提供する。)

日付	名前	大学・学部	総合点 163	評価%	判定
個人評価	****	** **	143	88	B+

判定	評価	
A+	95-100	個人留学や海外における研修、ボランティアなど国際的なプログラムに参加できる危機管理能力が十分にあります。海外経験の豊富な方は過信に気をつけてください。
A	90-94	留学や海外プログラムに参加する基礎的な理解と危機管理能力がありますが、低い項目の解説を読み直し、間違っている点を確認してください。海外経験の豊富な方は過信に気をつけてください。
B+	85-89	留学や海外研修など海外プログラムに参加するための基本的な危機管理に関する理解はありますが、まだ少し有事の際の判断能力に欠けるので、慎重な行動を心がける必要があります。低い項目の解説を読み直し、間違っている点を確認してください。
B	80-84	留学や海外研修に参加するための基本的な危機管理に関する理解はありますが、まだ不十分なポイントがあり、個人で参加するにはまだ準備不足です。低い項目の解説を読み直し、間違っている点を確認してください。
C	70-79	個人留学や海外研修、国際ボランティア活動に参加するためには準備不足です。解説をすべて確認し、再度 Eラーニングを行ってください。
D	69 以下	集団で海外研修や海外旅行には参加できるが、個人で海外に出る場合は十分に気を付けてください。解説をすべて確認し、再度 Eラーニングを行ってください。(要再研修+Eラーニングの再受講)

*受講者は、Eラーニング・プログラム終了後、すぐにこの判定を提示し、自分の海外における危機管理

レベルを確認する。

*また、下記「項目別正解率データ」(サンプル)を終了後、項目ごとのデータを提示し、低い事項を解説から確認することができる。

		得点	正解率	確認事項	解説
A	海外に出るための基礎知識	20	83		
B	旅行前に準備しておくこと	8	72		
C	テロに対する心構えに関する質問	10	100		
D	トラブルの事例と対策：Case Study	30	91		
E	禁制品や制限品目に関する質問	4	57	要確認	
F	宗教や習慣に関する質問	7	100		
G	麻薬に関する質問	7	100		
H	交通に関する質問	4	100		
I	海外で災害に見舞われた時に関する質問	15	94		
J	健康に関する質問	29	85		
K	未知な感染症に関する質問	9	90		
合計		143	88		

大学に提供する評価結果

⑤ 大学に対しては、個人データの漏洩を気にするので、学生の個人データは、暗号化して大学の本部、学部の担当者のみ受講したかどうかを確認できるデータを入手可能にする。また、大学には、大学全体の各項目 (A~J) の評価(正解率)、各学部の各項目 (A~K) の評価 (正解率) を報告する。

a. 総合点の平均正解率(〇〇/100 点) : A-D 評価

b. 大学には学部、学年、学籍番号など個人データごとに総合点、項目ごとの正解率 (%) を表示して、担当教員が確認できるようにする。

c. 大学としての項目 (A~J) ごとの評価・正解率 (%) とその平均点(表4)を学部、学年ごとに評価を表示する。

大学に対する報告サンプル

*大学への採点結果は名前の確認と総合点+評価+判定だけでも構いません。

令和2年度 〇〇大学XX学部・海外危機管理Eラーニング・プログラム結果分析

No	氏名	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	総合点	正解率	判定
		24	11	10	33	7	7	7	4	16	34	10	163	100	
1	****	20	8	10	30	4	7	7	4	15	29	9	143	88	B+
2	****	21	9	9	29	6	7	7	4	16	29	10	147	90	A
3	****	18	9	10	30	5	7	7	3	16	28	10	143	88	B+
4	****	20	8	10	32	6	7	7	4	14	29	10	147	90	A
5	****	21	9	10	31	6	6	7	4	16	29	10	149	91	A
6	****	21	9	10	29	6	6	7	3	16	30	10	147	90	A
7	****	19	8	9	29	6	6	6	4	15	30	9	141	87	B+
8	****	23	8	10	30	5	5	7	4	15	30	10	147	90	A
9	****	22	6	10	31	6	7	6	4	16	27	10	145	89	B+
10	****	15	8	10	27	7	7	6	4	12	30	10	136	83	B
11	****	23	6	10	30	5	7	7	4	16	27	10	145	89	B+
12	****	22	8	10	31	5	7	7	3	15	29	9	146	90	A
13	****	20	8	9	30	6	7	7	4	16	27	10	144	88	B+
14	****	21	11	10	30	5	7	7	3	15	28	10	147	90	A
15	****	17	8	9	30	6	6	6	4	15	27	8	136	83	B
16	****	19	6	9	31	6	7	7	4	14	28	10	141	87	B+
													144	88	B+

大阪大学 GRSC で分析するデータ

⑥大阪大学 GRSC では、各大学の個人データは必要なく、大学全体の項目ごとの評価、学部ごとの項目ごとの評価、質問ごとの正解率を分析し、学生たちのリスクに関する問題点を研究し、E ラーニングを毎年アップグレードさせ、この E ラーニング・プログラムを受けた大学全体のデータを分析して、大学生の間違えるポイントやさらなる問題点を加えて、グローバル化に伴うリスク管理意識を強化していきたいと考えている。

- a. 各大学の総合点の正解率(〇〇/100点：表1)：A-D 評価(表2)
- b. 各大学の質問ごとに正解率(%)を分析する
- c. 各大学の A~J までの項目ごとの正解率 (%) を分析する
- d. E ラーニング・テストの最後にアンケートを自由明記してもらい、内容を分析して、Q&A を作成して、2 年目から解説項目の最後で紹介する。

この E ラーニング・テストで、評価ランクが C・D ランクの学生には、出来れば 2 回受けられるようにしたい。海外に出る準備初めに一度受けて、その後、自分の弱点や間違ったポイントの解説などを読んでから、海外に出る前にもう一度受けることが出来たら効果的である。受講者への受講後に得られる結果も 1 回目も 2 回目も両方の総合点正解率 (%) と A~D 評価を見せて、理解が向上したかどうかを確認させたいと考えている。

3. グローバルな活動を実施する教育関係者のためのリスク対応 E ラーニング Version1.0

(教職員向け：100 点満点：所要時間 30 分)

この E ラーニング・プログラムは、大学（教育機関）が、学生を海外に派遣する場合に大学の執行部、学部・研究科の教職員が知らなければならない、また、考えなければならない項目をあげ、そのポイントを紹介しています。

教職員向け E ラーニング・プログラムの評価

A	90-100	海外プログラムにおける有事の際のリスク対策に関する認識が高く、理解している。
B	80-89	基本的なリスク対策は理解しているが、間違った点の解説に必ず目を通し復習することをお勧めする。
C	70-79	解説を読み、再度 E ラーニング・プログラムに挑戦してください。

E ラーニング・プログラムの内容

- A 教職員が準備する安全対策（渡航前・渡航後）7 点
- B 学内の危機管理セミナーの実施について 5 点
- C 留学（研修）の実施/中止の判断 6 点

- D 学生の渡航後の安全対策 8点
- E 危機管理（危機災害発生時）6点
- F 緊急対策チームおよび危機対策本部の役割 13点
- G 海外研修・引率教員の注意事項 23点
- H 海外滞在中の注意事項について 6点
- I コロナ渦以降の感染症対策 9点
- J 新型コロナウイルスでの新しい生活様式に関して 16点

今後、GRSCでは、下記のようなEラーニング・プログラム・シリーズを検討している。

- ①大学生の海外における危機管理Eラーニング・プログラム（グローバル編）済
- ②日本の大学(教育機関)の教職員向き危機管理EL 済
- ③ビジネスで海外に出る人向け危機管理Eラーニング(8月中の予定)

このプログラムは、企業や一般の団体・組織が海外で活動する場合に理解すべきリスクに対する危機管理対策Eラーニング・プログラムです。

- ④ 日本国内の危機管理Eラーニング・プログラム(留学生、技能実習生、新入生：日本人)
(12月末の予定)

このプログラムは、海外から日本に来る留学生、技能実習生が、日本の生活において知らなければならない基礎的なリスク・マネジメントに関する知識に関するEラーニング・プログラムです。

日本語、英語、スペイン語、ポルトガル語、フランス語、中国語、韓国語、インドネシア語、タガログ語、タイ語、ネパール語、他